

東京新橋「福岡久留米館」オープン 首都圏に伝える 4市2町の魅力

7月22日から営業開始

アンテナショップ（※）「福岡久留米館」が7月22日、東京新橋にオープンしました。特産品の販売や試食、伝統工芸品の展示・販売、移住に関する相談や情報提供などを行います。人口減少と首都圏への人口流出が進む中、国は地域の主体的な活性化の取り組みとして「地方創生」を打ち出しました。そこで、久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町の4市2町で構成する「久留米広域連携中枢都市圏」で、圏域を活性化するため41の取り組みを決定。

その一つがアンテナショップで、首都圏で情報発信し、圏域をPRします。

田中麗奈さんも来館

店舗は新橋駅のすぐそば。12階建てのビルの1・2階です。整備費用は約7000万円。交通アクセスが良く、働く人や買い物客など、多くの人が行き交う場所を選びました。

開館セレモニーには、久留米ふるさと特別大使の田中麗奈さんも参加。来場者に記念品を配り、一緒に完成を祝いました。

◎広域行政推進課（☎0942・30・9114、FAX0942・30・9743）

福岡久留米館の入り口



都会からの 新たな人の流れ

久留米市長 橋原利則

古くから生活圏や経済圏が同じ筑後川流域の4市2町は、共通のニーズや課題に対応するため、これまでも連携してきました。

このたび開店した福岡久留米館は、この圏域の魅力や首都圏で発信し、新たな人の流れを生み出すことを大きな目的としています。店内には、豊かな食文化や匠の技を生かした品揃えと

なっています。圏域外の皆さんには大いにアピールし、ゆかりの皆さんには懐かしさを感じていただけるものと思います。新橋という地の利を生かし、末永く愛される店を目指していきます。



各首長と久留米ふるさと特別大使の田中麗奈さんがくすたまを割り、開館を祝いました

※アンテナショップとは、企業や自治体（自社（地域））の商品の紹介や、消費者の反応を見ることを目的に開設する店舗のこと

福岡 久留米館

■所在地 東京都港区新橋 2 の 19 の 4、SNTビル 1・2階 ■営業日 12月31日～1月3日を除き、無休 ■営業時間 10時～20時 ■アクセス 東京メトロ銀座線新橋駅 2番出口すぐそば ■連絡先 ☎ 03・6280・6557、FAX 03・6274・6647



福岡久留米館は、1階で旬のフルーツや久留米ラーメンをはじめ、さまざまな特産品を販売。2階は、伝統工芸品販売や飲食コーナーなどを設けています。今後は、圏域が誇る20歳元の地酒や、農産物の即売会など、イベントも行います。同館は、行政が店舗を造り、民間業者が運営。受託したのは、かがし屋（うきは市）です。マネージャーを務める三井恒一さんに、各コーナーの案内と、注目ポイントを聞きました。

おすすめ、こだわり多数

三井恒一さん



マネージャーがショップをご案内

福岡 久留米館フロア案内

1階は特産品 2階は伝統と体験



ラーメンや農産物の他、日本酒、ワイン、燻製、調味料、菓子、加工品など、幅広いラインナップ。中には、圏域の出身者でもあまり知らない、隠れた逸品も



店の顔にふさわしい品揃え

1階に並んだ商品は400種類以上。今の売れ筋は、東京でも人気のとんこつラーメンです。酒も20種類以上を準備。これから東京のお客さんのニーズが見えてくるので、店の顔にふさわしい品を数多く揃えていきます。



特集 広域連携で圏域の成長・発展へ

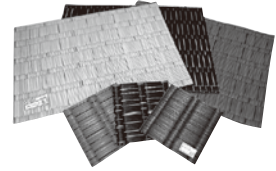
工芸品コーナー

手に取って感じられる

蒔製品や大川組子、一の瀬焼きイ草製品など、構成市町の伝統工芸品を展示。販売コーナーに陳列した商品約100品目を、手に取れるようにしています。

東京で伝統工芸品に触れられる機会は少ない。なので、作り手の思いや工房の雰囲気など、本当の魅力を感じられる催しをやりたいと思っています。

2F



東京に居ながら、地方の工芸品を手に取り、素材の感触を確かめられる。ネットショップには無い良さです

イートインコーナー

店を丸ごと楽しめる場所

テーブルと椅子は、大川家具を使用。手触りが素晴らしいですよ。テーブルの中央には久留米蒔と大川組子をあしらっています。このコーナーの一番の売りは「今日の銘酒飲み比べ」。500円という破格で提供しています。酒だけでなく、5種類のおつまみやコーヒー、お菓子など、このコーナーで味わえるものは、全部1階で購入できます。まさに「イイトこ取り」。お店を丸ごと楽しめるコーナーですよ。

圏域情報コーナー



週1で移住コンシェルジュ

移住を考えている人のために、水曜の14時から18時まで移住コンシェルジュが来店。情報提供やアドバイスを行っています。また、圏域のことが分かるように、観光・物産情報紙なども準備。市町ごとに並べています。

アンテナショップ通も満足

アンテナショップで、各地の地酒を楽しむのが好きです。ここは座って飲み比べができて良いですね。お酒自体もすごくおいしい。この酒を引き立てるつまみをセットで出しておくと、味になじみがない人にもおいしさがしっかり伝わるとおもいます。



本紙の取材日に店舗を訪れた古賀俊治さん（東京都）。また来たいと感想を話してくれました





瀬戸 渡さん

明善同窓会関東支部会長

福岡久留米館は ふるさとの玄関口

東京で生活する圏域出身の瀬戸渡さんに、福岡久留米館への期待などを聞きました。

地元で「知らない人は居ない」から、「知る人ぞ知る」商品まで、実にいろいろな物が揃っているなと感じました。地元で長く愛されている物は、東京でも通用します。お客さんは「そこには無い物」を求めてきます。例えば、日本酒の飲み比べと「がめ煮」をセットにしたりすると喜ばれるんじゃないですかね。お酒に合うし、東京ではまず味わえない。

アンテナショップの目的は「発信」。それならば「おいしい」「素晴らしい」と心から感じて、ファンになってもらうことが大切。そうすればまた来てくれるし、必ず誰かに話してくれまします。気に入った物は人に話したいじゃないですか。それが一番のPR。そのためにもコンセプトを明確にして、魅力を分かりやすく「見せる」ことが大切です。

ここに来ればふるさとの商品や情報がある。そして同郷の人と立場や年代を超えて交流できる。関東に住む圏域出身者にとっての「ふるさとの玄関口」になれると思います。

地方創生に不可欠 広域連携のまちづくり

久留米広域連携中枢都市圏ビジョンに基づき4市2町が連携。
来訪者や移住者を増やし、圏域の活力維持を目指します。

人口と活力の維持が不可欠

平成22年から、久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町の4市2町は、「久留米広域定住自立圏」として連携。小児救急センターの運営支援や病児保育の広域化など、暮らしに密着したサービスの向上を進めてきました。

しかし近年、人口減少や少子高齢化、首都圏への人口の一極集中が進行。圏域の人口や活力の維持が難しくなっています。そのため、限られた財源や地域資源などを活用し、圏域の経済の活性化や、新しい人の流れの創出に取り組む必要があります。

住みたい、訪れたい圏域へ

28年2月、「定住自立圏」から「連携中枢都市圏」に移行し、「久留米広域連携中枢都市圏ビジョン」を策定。定住自立圏で進めてきた事業に加え、圏域全体の経済成長や高次の都市機能の集積・強化に取り組み、定住・移住・交流人口を増加します。そして、「住み続けたい、暮らしてみたい、訪れてみたい」という将来像の実現を目指します。

初年度から取り組みが進む

アンテナショップの開設は、首都圏での知名度向上や特産品の販路拡大・販売促進で、圏域経済を活発にする取り組みです。また、久留米シティプラザを生かした、圏域のにぎわいづくりも実施。久留米たまがる大道芸のプレイバントを大刀洗町で開催したり、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団の公演の



多くの人でにぎわった久留米たまがる大道芸

圏域住民向け予約枠を設けたりしました。圏域の公共交通の路線を一覧できるマップも作成。暮らしやすいまちづくりを進めました。



マップは各市町の本庁舎などでもらえます

特集 広域連携で圏域の成長・発展へ

連携中枢都市圏

久留米市



県南の中核都市

久留米市は、古くから県南地域の経済・文化の中心都市として栄えてきました。餅やゴム産業など、ものづくりのまちとして発展。県内最大の農業都市でもあります。また、久留米ラーメンや焼きとりといったグルメなど、多彩な食文化が根付いています。

ものづくりのまち

日本の三大酒どころ・城島を中心に、日本酒造りが盛んです。アンテナショップでは、さまざまな種類の酒を出品しています。また、餅の日傘やハンカチも販売し、久留米餅や藍胎漆器など、伝統工芸品を気軽に使ってもらえるよう工夫を凝らしています。

◎広域行政推進課 (0942・30・9114、FAX 0942・30・9703)



広域行政推進課
竹下佳奈さん

うきは市



美しい水のまち

うきは市は、耳納連山と筑後川に挟まれた肥沃な田園が広がる美しいまちです。日本名水百選「清水湧水」、全国水源の森百選「調音の滝公園周辺」、日本棚田百選「つづら棚田」、疎水百選「大石用水」という水にちなんだ4カ所の全国百選があります。

フルーツ王国うきは

春のイチゴに始まり、ブドウや梨、キウイなど、四季折々の果物が楽しめる「フルーツ王国」としてPRに力を入れています。アンテナショップでは、地元産の果物を使ったジャムや一の瀬焼などの焼物も出品。「うきはブランド」の魅力を発信していきます。

◎うきは市企画財政課 (0943・73・9152、FAX 0943・75・5509)



企画財政課
宮原有加さん

大刀洗町



うましふるさと大刀洗

大刀洗町は、筑後平野に包まれた自然豊かなまちです。穏やかな田園風景が広がり、人々の温かさもまちの自慢の一つ。福岡都市圏や九州各地へのアクセスも便利で、「都心で働きのながら、子育ては大自然の中で」。そんな暮らしを叶えられるベッドタウンとして注目されています。

地の豊かさあふれる逸品

アンテナショップには、地酒やしょうゆ、餅商品などを出品しています。他にも、新鮮なサバとすり身を合わせた一風変わった練り物など、大刀洗町でも人気の高い商品を取り揃えています。

◎大刀洗町地域振興課 (0942・77・0173、FAX 0942・77・3063)



地域振興課
棚町寿さん

各市町 自慢の逸品

大川市



企画課
二神翼さん

大川市企画課 (☎094
4・85・5553、FAX 0
944・88・1776)

大川市は、都市圏や海外への販路拡大に積極的に取り組んでいます。商工会議所青年部が中心となって経ち上げたブランド「木のきもち」がその一つ。木工製品やお菓子など、地元のいろんな商品に使って「オール大川」を演出しています。

オール大川で販路開拓

アンテナショップでは木製品や、掛川織や酢など、大川の魅力をぎゅっと集めた展示になっています。大川市の魅力をぎゅっと集めた展示になっています。大川市の魅力をぎゅっと集めた展示になっています。

家具も家具以外も



小郡市



企画課
池上崇啓さん

小郡市企画課 (☎094
2・72・2111、FAX 0
942・73・4466)

自慢の逸品として日本酒、はちみつ、洋ラン、コーヒード豆などを、アンテナショップに出しています。小郡市でも購入可能なものばかり。ぜひ、小郡市にお越しください。『メイドイン小郡』の逸品を存分にお楽しみください。

メイドイン小郡の逸品

小郡市には、織姫を祭った「七夕神社(媛神社)」と、織姫の恋人・牽牛を祭った「老松神社(牽牛社)」が川を挟んであります。つまり小郡市は、真正正銘の「七夕の里」。平成25年には「恋人の聖地」にも選定されています。恋する七夕のまち、小郡へぜひ遊びに来てください。

七夕の里



大木町



産業振興課
高木希美さん

大木町産業振興課 (☎0
944・32・1063、
FAX 0944・32・1054)

近年では、イチゴやグリーンアスパラガスなどを温室やハウスで育てる「施設型農業」が盛ん。アンテナショップには、果物を使った酢やひし茶の他、い草を使った消臭剤などを出品しています。

い草にヒシ茶 果実酢も

大木町は、総面積の14%を堀が占める町です。古くから温暖な気候と肥沃な土地、豊富な水に恵まれ、農業を中心として発展してきました。また、県内有数の米作地帯、国内屈指のい草・草製品の産地として知られてきた歴史を持っています。生きる上で大切な食物を作り出す「食の景観」が広がっています。

広がる食の景観

